

大沢地区“まちづくり懇話会”会議録

日時：平成 29 年 7 月 4 日(火) 18:00～20:00

場所：大沢公民館

- 次第：1 開会 地域振興課長
2 挨拶 日光市長 斎藤文夫
3 内容 (1) まちづくり懇話会とは
(2) テーマ「子育てしやすい地域づくり」について
(3) 意見交換
4 その他
5 閉会

《意見交換内容》

参加者：私は子育てが終わっているのでありきたりの話になってしまうかもしれませんが、子育てしやすいということはどういうことかと考えてみると、自分の住むところの近くに保育園や幼稚園、小学校や中学校または児童館等があればいいのではないかということです。先ほど待機児童はなしということなので、保育園や幼稚園の増設は必要ないと思いますが、仮に校庭で遊ぼうと思って校庭で遊べば、学校側からそこで遊んではいけませんと言われるような状況がありまして、キャッチボールもできない、三輪車の練習もできない、自転車乗りもできないという現実的なところがあります。子供が生まれてから日光市ではいろいろやっていると思うのですが、そういったものを積極的に利用する、また知らない人もいるのかなと、それと子育てに悩む人を察知してアドバイスや手助けをしたり、それについて大沢地区では民生委員児童委員に、どこの誰かが出産したという情報を受けたら、お祝い品等を用意してそれで悩み事等があれば、名刺を渡して悩むことがあったらいつでも電話をして相談してくださいということで、やっていこうというような話ができております。ただ、おめでとうと言って持っていく品物のお金はどうするかという話で、まだそのところは決まっておられません。大沢地区は環境的には良いところかなと思います。日光医療センターを森友のほうへつくるという話が今日新聞に出ていましたので、大きい病院が大沢地区に来るなという喜びを今感じております。私自身どうしたらそのようなまちづくりができるかということを考えてみたら、もう 70 歳を過ぎているので、そんなに大きなことはできないけれども、散歩で幼児を抱える人がいたら挨拶をしたり、幼児のことを褒めたりすれば何か話ができるのではないかなということで、何か気づいた点があったら、こんなこともできますよとか、知っている限りのことをやっていければ、私のできることはこんなところかなということです。

教育長：学校の校庭は安全と責任といった観点からお断りしています。

参加者：スポーツクラブが使っていると、危ないから来ないでくださいと言われます。

教育長：特に土日の場合は無人になります。例えば、幼児がブランコに乗っていて、転んでけがをしたとき、管理者としましては責任問題にもなってくるのです。そういうことで断っているのだということです。

参加者：結果的には遊べないということですね。昔は空いていれば遊んだりしました。児童館の子供たちが、たまたま空いているときに遊ぶのです。孫が小さいときに、知らずに三輪車に乗っていたら、ここは危ないから遊ばないでください、遊んではいけませんということでした。自転車乗りの練習もしてはいけませんと、児童館の職員に言われたことがあったのです。そんなことがあったものですから意見を出しました。

健康福祉部長：できるだけ使えるようになるといいなと思うのですが、難しい部分であります。

参加者：使える場所をつくっていただきたいというのが私の最終的な意見です。見渡す限り公園などはないので、この辺に作っていただけないかなということです。

建設部長：少し出掛ければそういう場所はあると思うのですが、おしゃっているのは近くにということだと思います。新しく開発された分譲地は、開発事業者がつくった公園を市のほうに寄付していただきまして、使っている状況がございます。住宅地の近くに公園をつくらなるとなると、一番の問題は用地の確保になります。用地の確保や提供なども含めまして、整備に対する条件等が整った場合は調整や協議をさせていただいて、公園整備に向けて動いて行くという事になるかと思えます。

市長：旧今市のときに、各地域にスポーツ公園的なものを塩野室も、落合も、豊岡もつくったのです。大沢は最後になってしまったのですが、そういうものがないのか体育館がいいのかを、大沢の皆さんに検討していただいた結果ここを建てたという経緯があります。公園については、確かにこれまでもご意見をいただいておりますが、なかなか難しいというのが現状です。もう1つは、今の獨協医療センターには機能が全部残るとは言いませんが、医療施設としては残りますので、ご理解ください。

参加者：子育てについてはいろいろありますが、私の考えとしては地域が重要だと思います。最近の自治会を見ますと、核家族とかもありいろいろな繋がりが薄れてきて、自治会に入っても意味がないという意見もあります。昔は組内の中で不幸があれば、枕団子をつくりたりして、作り方などを伝承してきてそれなりの班のつながりがあったのです。最近は枕団子さえも作らなくなって、本当に班のつながりも薄れている状況です。うちの自治会を参考にしますと、自治会は必要だけれども、班は必要ないということで班を抜けるということで、さらに人間関係が気薄になってしまいます。そのような中で子育てをしても、やはり、じいちゃんやばあちゃんのつながりもなくなってしまいうし、非常に危機感を持っています。幸いにして、うちの自治会については行事的にかなり活発にやっています、う

ちの自治会に住みたいということで、非常に最近はまとまってきています。その中で、まちづくりの支援事業のお金についてです。うちは今年が6回目で終わってしまうのですが、ものすごく効果がありまして、いろいろなことをやることによって、人間関係に繋がりが出てきました。地域内には小学校が2つあります。育成会がそれぞれありまして、現在役員になりたくないということで、くじ引きで役員が決まっているような状況なのです。昨年いろいろな問題があり、2つの育成会がうまくいかなかったのです。それは危険だということで、今年は地域の農家の方をお願いして、畑を借りまして2つの育成会でさつまいもを植えました。欲をかいてしまって畑が大きかったので大変だったのですが、さつまいもを植えて育成会同士の交流、地域の交流ということで活性化に向けていろいろ活動をしています。お願いしたいのは、6回終わったら、次の新規を作らなければならないというルールになっていますが、そこを何とか予算をつけてもらいたいという要望です。それから子育て支援希望者の募集と登録というものをやってみたらどうかと思っています。要するに、私は初めて子供を産んだのでどうしたらいいのだろうと、登録制にしてそれを支援してもらったらどうかと考えております。私も今この困ったときの子育て支援ブックを見て、素晴らしい内容のものができているのだな、準備されているのだなと初めてわかりました。こういうことも少し勉強しないと、活力のある地域にはできないかなと考えております。

地域振興部長：自治会によるまちづくりの支援の関係ですが、合併当時に3回という交付制限がありまして、それが3回過ぎたあとに、要望が多かったため更に3回延長させていただいた経緯があります。6回目以降再度の延長ということになりますと、まだ活用していないところがあり、この理由が、単に事業が見い出せないというだけではなく、助成制度の期限が決まっていることから、回数を逆算して活用する準備をしている自治体もあるなど、活用回数にバラツキが生じております。したがって回数でいうと、5回目というところもあれば、まだ使っていないところもあり、これまでの経緯と公平性の観点からは、6回終わって更にとというのは難しいという事情があります。しかしながら、自治会の活力をつなげてもらいたいという期待もあるため、6回を超えた場合にあっては、お隣の自治会なりと連携が可能であれば、交流が図れるような事業を描いていただくことで、引き続き活用してもらおうことができるよう、今回新たな制度に改めさせていただきました。自治会の活性化のために継続できる制度設計とするためいろいろと検討した結果としての改正であるため、ご理解いただければと思います。

健康福祉部長：子育て支援希望者の登録ということなのですが、実はそういう仕組みがありまして、ファミリーサポートセンターと言いまして、子育てをした後に何かお手伝いしたいなというような方が登録をして、それを結びつけるという団体があります。先ほどおっしゃっていただいたとおり、日光市はこういうふうに頑張っている子育て支援をしていると、一生懸命報告しているつもりなのですが、なかなか広がらない部分もあると思いますので、そのファミリーサポートセンターも皆さんに知っていただければ、手伝える人も増える事業です

ので、なるべくそこに力を入れていきたいと思ひます。

参加者：私が市に聞きたいのは、母親が何か用事があったときに、預けていけるような場所を市のほうで提供できるようなかたちをとっていただければありがたいなと思ひております。一応、民生委員とかボランティアとかやれるかたちはとっているのですが、なかなか小さい子なので、そういうことが自分たちでやるのはなかなか難しいので、できればそういうかたちをとっていただければありがたいと思ひております。

健康福祉部長：保育園とかで、保育園に入っていない子でも生後3か月から預かるようなことが行われています。ただ、公立4箇所と大沢のほうにあると思ひます。保育園に預けなくても短時間で済むということであれば、先ほどのファミリーサポートセンターで預かっていただけます。お母さんの具合が悪いときも、一時的な預かりということで、保育園だったりファミリーサポートセンターで預かっていただけます。ファミリーサポートセンターの事業でそういったこともできますが、ただ、見てくれる人がいないと結び付けられないので、これも同じなのでしょうが、なるべくそういう事業に参加してくれる方、協力してくれる方を見つけることが大事なのだと思います。

参加者：ある程度の時間が決められているのですか。

健康福祉部長：通常保育時間ということで、8時半から18時半までの間で、費用のほうにつきましては時間帯でいただくかたちになっております。

参加者：子育てしやすい地域づくりというのは、周りに相談する人たちがいることや協力していただける近親者や近所の理解者がいることだと思ひております。また、お仕事をしながら子育てをするということを想定しますと、勤め先の人との協力が必要かなと思ひます。時間等や体調等を理解していただいて、余裕を持った勤務体制を維持していただけるのが一番よろしいかなと思ひております。環境的に考えますと、近くに保育園や幼稚園、小学校等があり、交通の便が良くて、道路より少し離れたところに住むのが一番良いのかなと思ひております。また大きな河川などがなく、コンビニやスーパーマーケット、病院があれば最高だと思ひております。周りに不審者や危険人物がいないことがいいと思ひております。日光市にお願いしたいことは、インフラの整備と市内企業等への要請です。あと子育て講座や子育て中の親子が遊べる機会や並びに場所の提供、子育ての手当支給及び増額、24時間体制の支援等をお願いできればよろしいかなと思ひております。

健康福祉部長：子育て講座や集まれる機会というものですが、今市のかましん3階にある子育て支援センターでは良く講座をやったり、お母さん方の交流の機会をお手伝いするというようなこと、それと日光と藤原のほうでも取り組んでいます。

参加者：子育てしているとどうしても急な発熱とか病気の対応とか、その他に急な用でどうしても自分が不在のようなときに子供を預けるところがあるかとか、24時間親のためにできることがあれば声をかければなんとかなるところがあれば、親としては安心できると思っています。

健康福祉部長：そのとおりだと思います。なかなか費用の面でいっても小児科は24時間体制になっていないので難しい面があるのですが、大きな課題だと思って少しずつでも前に進めたいと思います。

参加者：保育士をずっとしておりましたので、その時代から痛感していた賃金体質の件です。ここにいただいた公園、遊び場一覧がありますが、こちらの南部方面には大きな公園がないのです。ちょっと散歩に行こうと言っても、危険な道路を通ったり、学校の校庭は空いているかなとか、そんな心配をしながら遊ばせるので、思い切り走らせる場所がなかったものですから、子育てというテーマでしたので、家族が原点だったのだなと思ったのですが、広場がほしいということです。それから民生委員になってから、地元を歩きましたときにお母さんから、お母さん同士の繋がりがないのですと、宇都宮から引っ越してきてママ友ができないということでした。これは地域に1つ必要だなと思いました。幸い私も子供を預かっていましたので、自治会に相談しましたら、自治会の一部屋を貸してあげるから、そこでやればいいのかと言われたので、5年くらい経ちますが月1回やっております。たくさんいらっしゃるときといらっしゃらないときがあるのですが、そういう場を通じてお母さん同士の結びつきができたことは、子育て中のお母さんが、お母さん同士で話し合うことはたくさんあるのです。こんなときどうしていたのか、耳を澄ませるとよくそういう声が聞こえます。こういう場がやはり必要なのだと思いました。そのときお母さんたちからやはり聞かれるのは、他県とか他市では公園デビューとか聞かれるけれど、ここには公園がないものねという声がすごく耳に響いています。この辺にそういう公園があったらいいなという思いは常々ずっと思っていたものです。それからもう1つ民生委員の立場から言わせていただきますと、高齢者の方に広域の避難場所はどこと聞かれます。広域の避難場所は、南原のコミュニティセンターですと言ったら、あんなところまでとても行けないと、もっと身近にないのと言うので、歩いてこられるのであれば公民館でもと話をしたことはあります。これは夢かもしれませんが、もしつくってくれるのであればプレイパークみたいなもの、あまり遊具がなくても大きな広場があって、グラウンドがほしいなと思いました。以上です。

行政経営部長：公園を指定緊急避難場所には、日光市の場合しておりません。建物があるところが原則ということでやっていますので、南原のコミュニティセンターとか大沢地区センターとか、そういった建物があるところを、市として日光市内に123カ所指定しております。レジャー公園ということもあるかもしれませんが、この大沢の中で何かできるものがあれば、避難所として指定はしていきたいと考えています。

参加者：あまりにも大きいので、用地確保とかそういう問題で大変だというのは先ほどもお聞きしたのでわかるのですが、もしつくるようでしたら広いところで、それほど遊具がなくても子供たちが思い切り走れる場所、そしてヘリポートとか防災の拠点を兼ねたものができるらいいなと思っています。

市長：防災公園というのは日光市内にいくつかありますが、この辺にはないということですね。

参加者：日光市の子育て支援は、日本でもこのように制度が揃っているところはないと思うくらいに、素晴らしい制度がたくさんあるなあと思う割には、あまり知られていなくてもったいなと思うのです。それだけの制度があるのに、なぜ若い人は知らないのかなと思って、働くところがないのかなというのが一番問題だと思っています。子育てしやすい地域づくりということで、私としては3点考えてみました。1つ目は大沢地区には公園がないということで、本当にこれは何十年前から言い続けていることなのですが、一向に進まないし、一向にできないという不満が溜まっています。子供が公園デビューすることによってママ友ができて、サークルができて親同士の繋がりができてくると思います。大沢地区はなかなかそういうものがないというのは、そういう子供を連れて遊びに行くところがないからなのです。お母さんたちに聞くと子供を連れてどこへ遊びに行ったらいいのかなと、どこにも遊びに行くところがないと言うのです。本当に遊ぶところがないのです。ちゃんとした遊具がある公園があって、公園へ行くからママ友ができるのです。そこら辺をウロウロ歩いていたらママ友ができるかということ、そういうわけではないのです。小さい子を遊ばせる場所がないというのもあるけれど、小学生の遊ぶ場所も本当にはないです。一輪車や自転車の練習をしたいというときに場所がないのです。本当に公園はつくってほしいと思います。2点目は、地域で子供を育てる環境づくりということで、これは地域でできることだと思うのですが、小さい子を連れてママに優しく声を掛けてやるとか、見守りをするとかそういうことだと思うのですが、そのために地域の教育力を上げる必要があるのです。家庭の教育力とか、地域の教育力を高めるような講習会とか講座を開いてほしいなと思います。そこでボランティア育成なんかも一緒にできたらいいのかなと思っています。3点目は、異年齢間の交流をするのが、子育てしやすい地域づくりにつながってくるのかなと思っています。例えば、大沢小学校の児童クラブは、学年単位に分かれています。児童クラブに毎日長い時間いるのに、学年単位になっているのはもったいないと思うし、学校の中でいじめがクラスであったときに、そのまま児童クラブのほうまで引きずってってしまうという可能性もあるし、そういう問題があったということも聞いています。これは早急に改善すべきところではないかなと思っています。それも含めて、核家族が多くなっている中で、その異年齢間の交流は必要になってくると思っています。公園ができたとしたら、自分たちに何ができるかといったら、公園を管理したりということはもちろんしますし、集まって来たママ友たちをつなげるためのサークルなんかも立ち上げていきたいなと思っています。子育て支援センターは確かにあるのですが、なかなか毎日そこまで行くとか、

行事のたびに行くとかというのではなくて、地域でそういうものができる場所が必要になってくるのではないかなと思っています。

市長：公園については先ほどから申し上げているのですが、大沢地区は公園を含めたスポーツ公園をつくる予定のところを、体育館を選択したという経緯があります。今、大沢地区に大きな公園を整備する計画は市ではもっていませんので、これからどういう方向にいくかは分かりませんが、別なかたちでの対応が必要かなと思っています。

教育次長：ただ今、家庭の教育力を高める、地域の教育力を高めるということで、地域コーディネーター、学校ボランティアの関係とかご存じだと思いますが、市として取り組んでいることといえば、家庭教育学級の中で、いろいろな講座を開くというようなことで、それが家庭の教育力につながるのかなというふうに考えています。これから新しくこのような講座をやっていきますと言えるものはないのですが、これまでやっています家庭教育学級とか、そういうものを活用していければと思います。

健康福祉部長：児童クラブの話ですが、場所によって時間が違っていたりすると、運営上なかなか難しい面がありますが、その辺は状況を踏まえた上で可能な限り対応していきたいと思えます。

参加者：防犯に関しましては、大沢は防犯見回りや緊急通報システムとか青パトも走っていますので、今のところ特に日光市に対してのお願いはありません。私は主任児童委員という役職を務めさせていただいて、民生委員という皆さんこういう人だなというのはわかるのですが、主任児童委員というのは、市民の方や学校の保護者、病院の方もなかなか理解をしていただけないということを私は思っています。今回、日光市の主任児童委員の職務を統一しようということで、ご協力いただきましてすごくいい回答をいただいて現在動いております。ただ、問題点がありまして、特に保護者のほうに理解を求めたいということでご説明させていただければありがたいと、学校に何回もお願いしているのですが、学校のほうで勘違いをされているのか、なかなかうまくできませんので、教育長のほうからのご協力のお願いをしていただければ非常にありがたいです。また健康福祉部長にもいろいろとお力をいただきました。また今日来ている子育て支援課にも幼稚園や保育園に関して、情報交換のときにお声をかけくださいと協力いただいて進めております。子育てしやすい地域づくりということで、特に地域として、子育てしやすい地域づくりを市民として何かお手伝いできないかということ、日々考えながら活動しているのでまさしくこのテーマだなと思っています。私は1点だけ市にご協力いただきたいことがあります。やはり少子化や核家族化に伴い、子育ての孤立感や育児不安もあり、児童虐待事件とか少年犯罪も相次いでいる中に、主任児童委員が溶け込むというのはなかなか難しいですが、その中で私たちは妊婦から18歳までが担当ですので、赤ちゃん支援事業と言いますかそんなかたちのものを、ぜひ日光市として取り組んでいただければありがたいと思っています。先ほども出たの

ですが予算が難しい状況なので、ぜひ予算のほうを日光市でお手伝いいただければありがたいです。女性の方が結婚して日光市に引っ越して来たときに、誰も話し相手がいないととてもさみしい思いをしたと伺ったのですが、高齢者のお祝いというのはどこの市でもやっていますが、赤ちゃんが生まれたときに地域でお祝いというのは、声をかけたり地域で育てるというのはありますが、なかなかその点はうまくできてない部分が多いと思っておりますので、ぜひ赤ちゃん事業をやりたいと思うのですが、ぜひ予算を考えていただければありがたいと思います。

教育長：主任児童委員さんの理解ということですが、まずこれは校長に理解していただかないと学校の中へは進みません。それと同時に日光市全体で学校の教員だけでなく、いろいろな立場の人に入ってもらって、児童生徒指導委員会という大きい組織があります。そこに主任児童委員さんの代表の方にも入ってもらっていますので、そういったことから理解を促進していきたいと思えます。

健康福祉部長：先ほどの民生委員さんが、赤ちゃんが産まれてから訪問するということですが、そういう活動をしていただくと非常にありがたいことだと思います。予算という話が出たのですが、どういう支援というかどういう体制で市のほうも協力できるのかというのは、考えていきたいと思っていますので、ぜひお話しいただきたいと思えます。正直、また民生委員さんの仕事が増えてしまうのかと心苦しいところもあるのですが、民生委員さん児童委員さんのほうで活動していただけるということであれば、市のほうも取り組んでいきたいと思えますので、よろしくをお願いします

参加者：実際に神奈川県のある市ではボランティアさんと中学生が一緒になって、何かプレゼントを持っていたり、いろいろなものを行っているところもあります。やはり目的として、民生委員児童委員、またボランティアさんや中学生を交えて、地域で一緒に見守っているということが一番の目的ですので、予算に関しましてはできましたらいただくと助かるので、少しでも予算のことを考えていただければと思います。

参加者：私は小、中、高と子供がいて、まだ子育て真っ盛りなので日光市の助成に対しては大変恩恵をいただいている世代です。ファミリーサポートセンターの制度というのは、少し敷居が高いというイメージがあって使うことはないです。使おうとも思いませんでした。なぜかというと、やはりマッチングをしないといけない、そこに達するまでの井戸端会議的、悩み相談的なものがあつたら、そこにつなげやすいのかなというのがあって、そういう役割を担うのが公民館であつて地域の交流のところだと思うのです。せっかく立派な公民館をつくってもらったのですが、先ほど皆さんが言っているように広場がないのです。例えば、ゲートボール場がある、子供たちがドッチボールをする広場がある、それだけでお年寄りとお年寄りが遊べるのです。ここでママたちが講座を聞いたり、お年寄りがゲートボールをやって、帰りに寄ってみたらおじいちゃんとおばあちゃんに、そこで子育ての悩みを聞

いてもらえるのです。要は統合型の設備みたいなものを目指して、公民館を貸してもらうのが一番いいのではないかと私は思います。結局、独居のお年寄りも何かわからないけど友達がいるからここに来てみたよ、そうしたら一人暮らしの相談を受けてくれる人がいたよと、地域を支えるために公民館があるのではないかと話を聞いて、この公民館が、各適材適所に振り分けられるような役割を担っていただければいいのではないかと思います。1カ所そういう場所があれば、とても子育てがしやすいのではないかと思います。ただ、大沢は広いのですが、この辺は小、中、保育園が集まっていて、公民館もあるということで、この辺の立地条件で何とかしていただくのが理想だと思います。自分たちがしなければいけないことは、こういう制度がとても充実して、日光市は恵まれているということ、周りに発信していかなければならないと思います。そういう発信をしていかないと、やはり引越しをしてきて住んでくれるという人はいないと思います。後は自分たちでこういうことは足りないというものを、どんどん日光市にアピールしていってお互いに住みやすいまちづくりができたかなと思います。たかが公園なのですが、大沢地区は悲しい事件があったので、子供を1人にすることにナーバスになっているのです。だから、親がついてあげられるわけではないので、公民館とか人目があるところで遊ばせられるというのは、とても理想なことなのです。大沢小の場合は、放課後子供教室とか遊ばせてくれる機会がありますが、グラウンドでは遊べない、広場では遊べないという状況なので、そこも何とか改善していただけたらと思います。

健康福祉部長：ファミリーサポートセンターの敷居が高いというのは、残念な話だと思います。敷居が高いというのはどういったところなのか教えていただいて、対応を取っていきたいと思います。

市長：公民館が主体的にというのは、どういったことをやるのが理想ですか。

参加者：健康講座とかそういうのをやって、それだけに来るわけではなく人と会う中で交流ができると思います。例えば、この一画にお茶を飲むところがあったりして、広場には子供たちがいたり、そういうふうになれば児童館とかあっていろいろな人と話をして、それがもしかしたら、その人の生きる勇気になるかもしれません。井戸端会議的なことから、子育ての悩みが出てくるのではないかと思うのです。そういう場所がないので、一人になってしまふのかなと思います。公園デビューの話ではないですが、とりあえず公民館に講座に来てみよう、ママ友ができたけど、講座を受けたらすぐに帰ってしまうような環境なので、せっかく素敵な公民館があるわけだから、地域の中核になったらいいのではないかなあと 생각합니다。

副市長：建物をつくって欲しいとおっしゃっている訳ではなく、仕組みをつくってくださいということですね。それをどういう仕組みにしていくのがいいのか、その際に私たちはここまでお手伝いできます、私たちでは限界なことを行政が担っていくために、お互いが協力して

やっていきませんかということをおっしゃっていただいているのだと思います。そういったお話は、地区センターにお寄せいただければ、それから市に上がっていきます。毎年8月から始まって、次の年予算が必要な場合には、その仕組みを9月いっぱいまでに固めて、次の年の予算に跳ね返すという仕組みが市役所の中にでき上がっています。

参加者：たぶんまちづくりでそういう話は出ていると思いますが、この間のまちづくりの話だと、いくらまでと決まっているから、公園はという話でした。

副市長：まずはお金の相談は後にして、できるところからやっていくということで、いきなり何億円というものはできないので、ご理解いただけるとありがたいです。まず意見を出していただいて、できるものから取り組むようにしたいと思います。

参加者：私も子育て世代でございまして6歳と3歳の子供がいるのですが、実際にそこまで市役所にどうこうというのはありませんが、子育て支援ということで子育てしやすい環境づくりというのであれば、やはり我々大沢の住民自体が、みんなで協力をして話し合いをしていかなければいけない状況だと思っております。ただ子育てを卒業した方が多くいらっしゃるということで、実際に子育てをしている我々の世代が一丸となって話し合いをして、引っ張っていかねばいけないと思います。私も実際ボランティアをしまして、同世代がないというのはとても悲しい状況として捉えているのですが、実際に考えていかなければならないのは、我々住民自体でございまして、いかに我々世代を巻き込んでいくかということが重要なことだと思います。そのような中で市にお願いしたいのは、若い世代にいかにPRしていくかということをお手伝いしてもらいながら、一緒に考えていただければいいのではないかなと私は思います。先ほど公園とか大きなものをつくってほしいという話がありましたが、実際に公園がないと思うのは、親としては確かにあります。ただ南原コミュニティセンターにちょっとした公園があったり、場所がないわけではないです。ただ誰も使っていないのです。やはり大沢自体、子供が外で遊んでいないという点が1つ、自分が子供を連れて散歩に行っても、親一人、子一人まったく外を歩いていないという状況です。車社会ということで、皆さんスーパーに買い物に行くにも車を使っている時代ですから、なかなか難しいということがあるかもしれないのですが、例えばノーメディアデーという、テレビを見ないようにしようとか、携帯をいじらないようにしようとかありますが、車を使わないで買い物をしてみましようみたいなことを、皆でやってみようという日をつくって、いろいろな人が顔を合わせる場をつくるというのも1つの方法かなと思っております。後はこの公民館自体を皆で集まれる場所ということで話もあったのですが、正直言ってここは遠いなと私は思っておりまして、前の大沢公民館なら、居場所事業ということで放課後子供たちを預かって一緒に遊んだりしていた立場なので、あの事件がなければずっと続いていたと思うのですが、そういったところで今後考えられるのは、地域の南原コミュニティセンターとかだと思っております。あと学校を毎日開放しろとは言いませんが、第3日曜日だけ校庭だけを開放して、親の責任ではないですが、そういった人たちが集ま

れる場所として、公園の代わりではないですが、代案としてそういうことができないのかなと私は思います。

教育長：校庭の解放ということでよろしいですか。

参加者：一番簡単なのは校庭かなと思います。

教育長：以前、子供たちの遊び場が必要だろうということで、旧今市、旧藤原、旧日光の3つは安全責任の問題があるので、保険をかけまして校庭を開放したのです。そしたら誰も来なかったというのが実情です。全部の土曜日が休みになってから学校週5日制が続いておりますが、実際問題は来ないのです。今は保険をかけていませんので、先ほど出ましたとおり最終的には責任の問題があります。現在は、責任で必ず訴訟や補償の問題にもなってきますので、今のところは開放していないというところが実際です。ただしスポーツ少年団等は、責任の所在がはっきりしていますので開放しています。

参加者：自分の子供がけがをしたら、それはもう親の責任です。

教育長：そういうものをいい方向につくっていかなければならない時代なのかなと思います。また、少子化というのも含めまして、時代の転換点にきているのかなと思います。

参加者：もう1つありまして、例の事件があったかと思うのですが、大沢のまちは大人も子供も全然外を歩いていないのです。正直、子供も友達の家を知らないというような状況でございまして、子供にいろいろ聞いてみますと、ほとんど家で遊んでいるような状況です。学校側としては、この流れのまま維持するのか、それとも昔のようにはいかないですが、もっと自由に、子供の自主性ではないですが、私の子供は部活が終わって5、6時すぎでも一人で歩いて帰って来るというのもありますので、そこまでとは言わないですが、どう考えているのかなと思います。

教育長：それは誰が責任をもって判断するのでしょうか。警察も判断できないことです。もう安全ですとは言いきれないと思います。

参加者：今の状況としては、守るという点ではすごくいいと思うのですが、逆に守りすぎているのかなと思います。それは親に言わなくてはいけないことなのですが、それをもう少し改革しないとどうなのかなと思っていますところがあります。

教育長：誰にも判断できないところなのだと思います。もしも同じような事件が起きたら、誰が責任を取るのでしようかという話になってしまいます。あの当時、私は東原中の教頭をやっていたのですが、こういうことは二度と起こしてはいけないということで、ずっときてい

ると思います。

参加者： 体育協会というと子育てに無関係な団体かと思われそうですが、大沢地区の体育協会においては、毎年一回、小学生だけを集めたキッズスポーツ大会というものを行っております。地区内の小学校から要請があれば、ニュースポーツ講座にも出かけております。その中のキッズスポーツ大会ですが、学校のほうには案内文を回します。ところが、各自治会のほうで、子供がいる家庭が自治会に入っていないと、回覧などを見ないので体育協会に限らず、いろいろな団体のイベントとかの参加率の低下につながっていると思います。それで、市としては子供のいる家庭の自治会への加入率をある程度把握しているのか、まったく把握していないのか、自治会任せなのかお聞きします。もう1点あるのですが、子供向け講座というのを、平成25年には34回、平成31年には50回とあるのですが、これはどのようなことやるのか、参考にお聞かせ願えればと思います。

地域振興部長： お子様のいるご家庭の自治会への加入数ですが、市のほうでは把握しておりません。

大沢公民館長： 大沢地区に限っての子供向け講座ということで申し上げます。大沢公民館では、育成会等と共催で事業を行っておりますが、芋ほりや科学教室ですとか、地域のボランティアの方をお願いをして一緒に交流して遊んだりとか、年8回を実施しております。

参加者： 何かアピールできるようなかたちを取っていただければと思います。日光はこういうところがあると、比較できるようなかたちが取ればいいかなと思います。学校行事においても全体で行事があった場合は、兄弟がいる場合はいいと思うのですが、学校に行っていないというかたちになってしまうと、やはり関係ないというふうになってしまうのかなと思います。ただ、我々もそうなのですが、自分たちの子供の頃は神社でお祭りがあって、それが大人になっても覚えているのです。だから、そういう体験をやはり子供さんにはさせていただければと思います。我々のところも神社のほうでお祭りがあるのですが、学校行事を含めまして体験とかができればいいかなという気がしています。いずれにしても少子化は国全体の問題かなという感じがしております。

健康福祉部長： 先ほどと同じような回答となってしまうのですが、いろいろ取り組ませていただいているわけですが、残念ながら浸透のさせ方やPRの仕方がまだまだ足りないのかなと思います。もっと取り組んでいきたいと思っております。

教育長： 先程の学校関係のお話ですが、子育て家庭を学校そのものに招待したらという内容でよろしいですか。

参加者： はい。

教育長：実情を言いますと、子育て関係ですと中学校の家庭科の中に保育という部分がありまして、例えばここの大沢中学校では、3年生のころにやるのですが、隣の幼稚園に行って幼児保育を勉強したり、最近では、赤ちゃんを育てているお母さんとその赤ちゃんに実際に学校に来てもらって、命の大切さを皆で学ぼうとか、そういうようなところを取り入れているところもあります。小学校の行事、例えば運動会ですと、来年小学校1年生になる子を招待したりそういったことがあります。これから先もそういったことが必要かなと思います。校長会がありますので、校長に子育て家庭を学校の中にということを考えられないかなということをお話してみます。

参加者：先ほど公園の話が出ておりましたので、公園のことに特化してお話ししたいと思います。私のところは分譲地ですので、かなり広い公園を持っています。遊具類も一通り揃っています。公園があったら全てハッピーかと言うと、決してそんなことはないのです。一番大変なのは草むしりです。公園ですから除草剤をまくわけにいかないのです、全て手作業で草むしりをしています。公園のご近所のご婦人方が数名いらっしやいまして、恒常的にやっていただいております。また、公園の周りの植木は、私が年に2~3回恒常的に剪定をしております。そういうふうな人手をわずらう部分もあるので、公園があったからといって全てうまくいくものではないということ、1つ認識していただけたらいいかなと思います。また、遊具類につきましては、建設課との間に公園管理契約を結ぶのですが、非常に建設課の方は親切で非常に感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

参加者：私の知識不足かもしれませんが、2年前の大雨による田川の増水で、県のほうで田川沿いの整備事業ということで地権者全員集めまして、田川沿いに新しい道をつくるということがあったのです。大雨で大部分が壊されてしまって、それがどうなったかわかりませんが、県の土木事務所に、それに付随して田川沿いに遊歩道のようなものをつくっていただけないかとひらめいたので、それだけ付加したいと思います。

市長：それは圃場整備関連の河川改修ではないですか。

参加者：うちの前の橋のところまで、車が入る歩道ということでかなり整備しているのです。大雨があったら逃げることができると思います。公園というのは確かに草むしりとかいろいろな問題があるでしょうが、それも1つ考えられるかなと思います。

建設部長：今おっしゃったところは、今後、道路になる予定になっております。土木事務所のほうと協議して進めますので、あとで情報を入れさせていただきたいと思います。